

排列ミスを防ぐ7つのポイント

—総義歯成功のカギは歯科技工士も印象法や咬合採得法を知ること—

岩城謙二

日頃、セミナーで受講生やスタッフの排列をチェックすると、利き目や利き腕の影響ではなく、皆が皆同じミスをする傾向が見受けられます。その排列ミスに繋がる7項目に整理して紹介するとともに、全部床義歯が難しいと言われる要因の一つに顎間関係から生じる生体の上下顎間の関係を記録する方法に問題があるとの指摘も示されています。中でも、安定した上顎の印象採得、浮かび上がらない下顎の印象法および咬合採得においては仮想咬合平面の設定、垂直的顎間関係の記録、水平的顎間関係の記録ができればほぼ70点以上の成果が得られると言われていています。

今回提案したいのは歯科技工士も歯科医師の先生と積極的なコミュニケーションを図るためには、印象採得の基準や咬合採得(顎間関係の記録)を習得する必要があるということです。この習得により、有床義歯補綴治療の不得手な先生にも製作術式についての話し合いが可能となり、信頼関係が構築され、その結果として再製作もなくなるという、お互いがWIN-WINの関係に繋がるものと考えます。それを実践することは、仕事上の責任による重圧感が軽減されます。

そこで、印象採得の基準、咬合採得の方法について、歯科医師との話し合いで必ずキーワードとなる項目についても紹介させていただきます。